

ヨシキリザメ インド洋

Blue Shark, *Prionace glauca*



管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：全長 383 cm、体重は不明
- 寿命：20 歳以上
- 成熟開始年齢：雄 4~7 歳、雌 5~7 歳
- 繁殖期・繁殖場：周年、北緯 2~南緯 6 度の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：幼魚は大型サメ類や海産哺乳類

利用・用途

肉はすり身等、鰭はふかひれ、皮は工芸品や医薬・食品原料、脊椎骨は医薬・食品原料

漁業の特徴

本種は全世界の熱帯から温帯にかけて出現し、外洋性サメ類の中で最も資源豊度が高いと考えられている。本種はまぐろはえ縄漁業で数多く漁獲されているが、基本的に混獲種であり、遠洋水域で混獲されるヨシキリザメは外地で水揚げされるか放流されている。

漁獲の動向

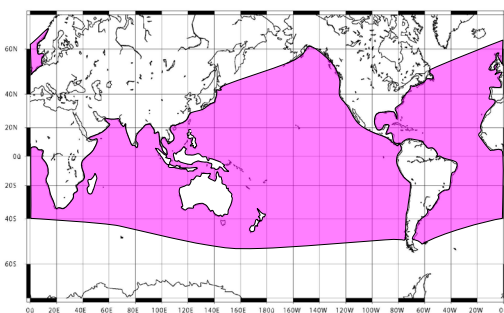
我が国のはえ縄漁業による本種の水揚量 (1994~2018 年) は、330~2,700 トンの範囲で推移しており、近年 (2014~2018 年) の水揚量は減少傾向である (平均 593 トン)。

資源状態

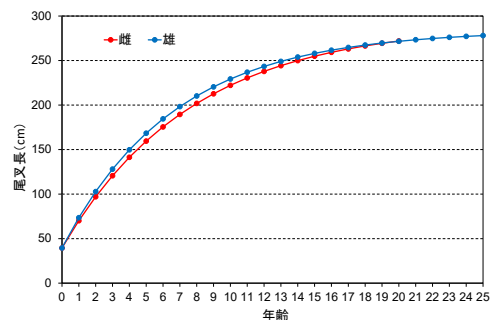
インド洋系群は 2017 年の IOTC 混獲・生態系作業部会会合において資源評価が行われ、現在の資源量は乱獲状態になく、漁獲も過剰漁獲の状態にはないとされた。しかし、近年の資源量及び漁獲死亡係数ともに MSY 水準に近付いており、漁獲量を増加させないことが勧告された。

管理方策

全てのマグロ類地域漁業管理機関において、漁獲されたサメ類の完全利用 (頭部、内臓及び皮を除く全ての部位を最初の水揚げまたは転載まで船上で保持すること) 及び漁獲データ提出が義務付けられている。

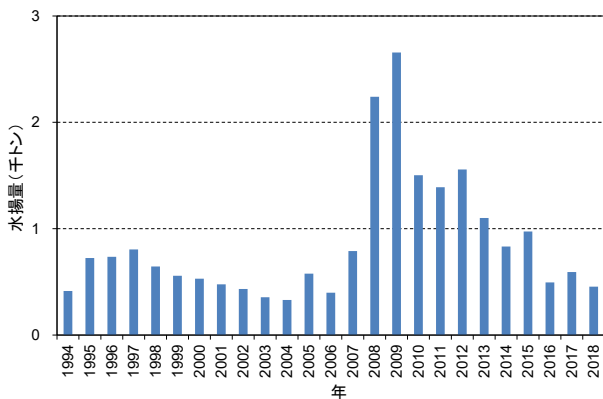


ヨシキリザメの分布

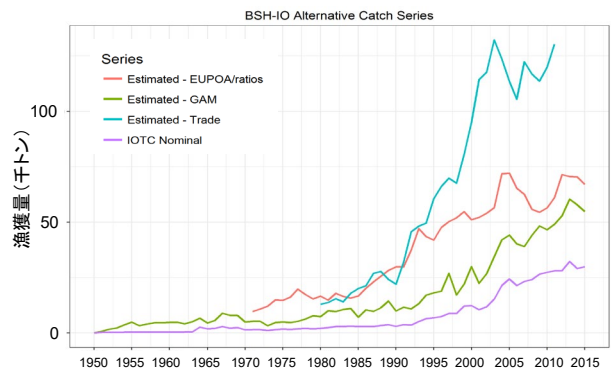


ヨシキリザメの成長曲線

ヨシキリザメ (インド洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	中位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	2.3 万~3.2 万トン 最近 (2018) 年: 2.3 万トン 平均: 2.8 万トン (2014~2018 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	450~974 トン 最近 (2019) 年: 450 トン 平均: 593 トン (2015~2019 年)
管理目標	検討中
資源評価の方法	SS、BSP、SRA
資源の状態	$SB_{2015} / SB_{MSY} : 0.83 \sim 1.75$
管理措置	漁獲物の完全利用等
最新の資源評価年	2017 年
次回の資源評価年	2021 年



日本のヨシキリザメ (インド洋系群) 水揚量 (1994~2018 年)



インド洋の資源評価のために推定されたヨシキリザメの漁獲量 (1950~2015 年)

Estimated-EUPOA/ratios (赤) は EU の各エリアや年の漁獲量割合から推定した漁獲量、Estimated-GAM (緑) は資源評価でベースケースとして用いられた漁獲量、Estimated-Trade (水色) はサメ類の貿易データから推定した漁獲量、IOTC Nominal (紫) は各国の水揚量の合計値。

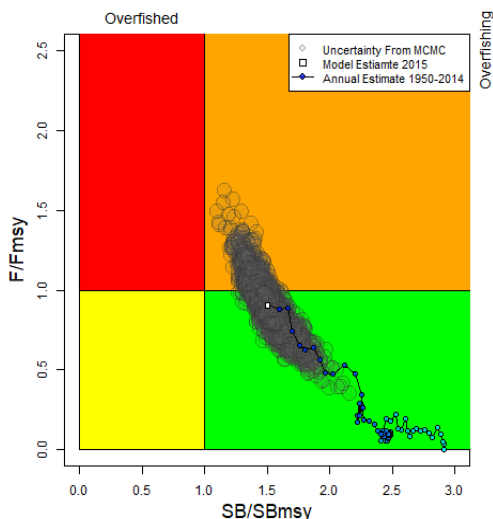
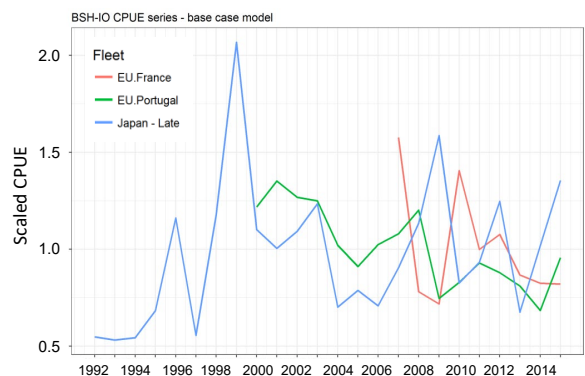


図 6. 統合モデル (SS) で示された神戸プロット
青丸及び実線はインド洋におけるヨシキリザメの相対資源量及び相対漁獲死亡係数の時系列変化。グレーの丸は MCMC による不確実性の範囲を示す。



資源評価で用いられたインド洋におけるヨシキリザメの標準化 CPUE (1992~2015 年)

縦軸は、CPUE を平均値で割ることで 1 にスケール化した CPUE。各線はそれぞれ EU フランスのはえ縄 (赤)、EU ポルトガルのはえ縄 (緑) 日本のはえ縄 (青)、を示す。